

■ 経営学部基礎演習について

学習目標

経営学部基礎演習は、新入生の皆さんに、これから4年間、松山大学経営学部でしっかり学んでいただき、確実に成果を蓄積していくための基礎を身に付けていただくことを目的として開講されています。経営学部基礎演習では、読書指導、論文・レポート作成指導や情報検索指導などを行います。したがって、経営学部基礎演習は、2年次から始まる専門演習における学習・研究を効果的に進めていくために必要な知識や心構えを学ぶ重要な意味をもつ授業科目となっています。

経営学部基礎演習の具体的なテーマは、担当教員によってそれぞれ異なります。皆さんが選択した経営学部基礎演習の担当教員は、皆さんが2年次になってそれぞれの専門演習に分かれていくまでの間、皆さんの勉学面を中心とした相談に応じる指導教授としての役割を担っています。経営学部基礎演習は、指導教授のもと、15名程度の仲間と一緒に、ゼミナール形式で進められていくことになります。

留意しておいてほしいことは、「**経営学部基礎演習の単位を修得できていないものは、演習第一(2年次必修科目)を履修できない**」(「経営学部履修規程」第8条)という点です。したがって、経営学部基礎演習の単位を修得できていない人は、2年次からの専門演習を履修できません。

繰り返しになりますが、経営学部基礎演習の指導教授は皆さんが充実した大学生活を送る上で必要なさまざまな相談に応じますので、遠慮しないで指導教授の研究室のドアをノックしてみてください。

※経営学部基礎演習(4単位)は、1年次生の必修科目です。次ページ以降を参照し必ず履修の申し込みをしてください。

■ 経営学部基礎演習申込方法について

経営学部基礎演習担当教員の選択は、各担当教員の講義内容をよく読み、3つのグループそれぞれの中から履修を希望する担当教員を1名ずつ選び、担当教員の番号(グループ別担当教員表を参照)を「[入学手続 Web 登録](#)」の際に希望登録してください。なお、必ず各グループそれぞれから1名の担当者を選択してください。(選択されていないグループがあった場合には、大学が適当な担当教員を選択します。また、希望する担当教員がない場合は選択しないでください。)

また、申込者が多い場合には、1クラスの履修人数を制限しますので、希望していない演習担当者になる場合もありますがご了承ください。

グループ別担当教員表

第1グループ	1. 伊藤 照明	6. 加藤 大智
	2. 岩崎 瑛美	7. 小西 敏雄
	3. 上杉 志朗	8. 東淵 則之
	4. 越智 悠暉	9. 森田 正大
	5. 片岡 亮太	
第2グループ	10. 安積 みづの	15. 橋崎 諒太郎
	11. 井上 快	16. 日原 尚吾
	12. 神谷 厚徳	17. 細川 美苗
	13. 忽那 浩	18. 松尾 博史
	14. 酒井 達郎	
第3グループ	19. 井上 修一	24. 田村 公一
	20. 上羽 博人	25. 田村 祐介
	21. 苅谷 寿夫	26. 中村 雅人
	22. 崔 琳源	27. 成田 景堯
	23. 柴田 好則	28. 山崎 義広

■ 経営学部基礎演習の講義内容

【第1グループ】

1. 伊藤 照明

サブタイトル: 経営情報システムの最新トピックを通じて学ぶアカデミックスキル

テーマと目的:

「未知なるもの」を探求しながら主体的に学ぶ大学での学習スタイルに慣れるためには、専門知識だけでなく幅広い教養を身につけるためのアカデミックスキルが求められます。本授業では、経営学に関連する情報システムの最新トピックを取り上げ、ディスカッションを中心とした演習を通じて、大学生として必要となるアカデミックスキルの習得を目指します。具体的には、コンピュータや基本的なソフトウェアの使用法、文献の読解、レポートの執筆、プレゼンテーションの基礎などを学びます。

2. 岩崎 瑛美

サブタイトル: 会計学の基礎と学習スキルを身につける

テーマと目的:

この演習では、会計学の基礎を学ぶとともに、学習スキルを身につけることを目標とします。そこで、簿記などの基礎的な会計学の知識を習得しながら、企業が公表する情報を利用し、財務分析を行ってみます。さらに、大学での学習で必要となるレポートや論文の作成方法、メールの書き方、プレゼンテーションスキル等を学んでいきます。

3. 上杉 志朗

サブタイトル: 大学での学びと松山大学を知る

テーマと目的:

個別授業では、大学での学び方を、ICT（情報通信技術）の活用を重視して身につけることを目指します。「ICT = 情報 + コミュニケーション + 技術」の、一歩方を「プレゼンテーション」「コミュニケーション」「ネットワーク」をキーワードに、松山大学の歴史や、大学生活全般との関わりを

含めて学びます。

4. 越智 悠暉

サブタイトル: 企業分析を行う方法について学習する

テーマと目的:

将来の就職活動を見据えると、企業分析を行い優良な企業を見つける力は重要であると考えられます。そこで本講義では、財務諸表等の情報を用いて企業分析を行う方法を学習します。また分かりやすい文章を書く方法や建設的に議論する方法といった将来に役立つ知識についても学んでいきます。

5. 片岡 亮太

サブタイトル: スタディスキルを身につけ、大学での学びを充実させよう

テーマと目的:

大学で学ぶためには様々なスタディスキルが必要になります。具体的には、授業の受け方やノートの取り方、PCの使い方など基礎的なものから、文献を正確に読む力、論理的に筋道立てて考える力、文章をわかりやすく書く力まで幅広く含まれます。この演習では、経営学について調べ、レポートや発表に取り組むことを通して、それらのスキルを実践しながら身につけることを目指します。

6. 加藤 大智

サブタイトル: 大学生に必要なスキルを身につけ、経営学部で学びたいことを考える

テーマと目的:

大学で学ぶにあたって、高校生のときの学習のように決まった範囲を受け身で覚えるだけでは不十分です。大学では、分からないことを自分で調べ、自分の意見や考えを人に伝えるスキルが必要になってきます。授業では、大学生として求められる、文献の読み方、レポートの書き方、メールの書き方などを学びます。そして、取得したスキルの実践として、経営学部で学べる科目について自身でまとめ、報告をしてもらいます。

7. 小西 敏雄

サブタイトル：大学での学習や研究に必要なスタディスキルを身につける

テーマと目的：

これからの時代に対応するためには、資料や文章の読解力、さらに、情報収集能力、そして、周囲の人たちと対話するコミュニケーション力、ディベート能力が必要である。基本的な文章の輪読から始めて、文章読解法、文章表現、プレゼンテーション能力を学んでいこう。ここで身につけた力は、これから将来にわたって、各自を助ける道具となる。このことを理解して、頑張ってください。

8. 東瀨 則之

サブタイトル：マインドマップで良い会社づくりと起業について考える

テーマと目的：

まず、情報の収集、処理、発信について学びます。具体的には、マインドマップと呼ばれる図を使った情報の関連付けについて学びます。その際、必要に応じてPCを使用します。次に、マインドマップを使った本の読み方、情報の集め方と整理の仕方、文章の書き方を学びます。これらを学ぶ際の素材は、「良い会社づくり」や「起業」に関するもので、必要に応じて、企業での優れた実践事例の動画も使用します。これらを通じて、今後、経営学部で学ぶための基礎を育んでもらいます。

9. 森田 正大

サブタイトル：大学や社会で必要とされる基礎的なスキルを身につけ、これからの自分を「デザイン」する

テーマと目的：

本演習では、大学での学びをより充実したものにするために、また社会人として働く際にも必要とされる基礎的なスキルや知識を身につけることを目的とします。具体的には、大学での学習の仕方や大学の活用方法、情報収集の仕方やレポートの書き方、パソコンやソフト（Word、Excel、PowerPoint など）の基本的な使い方、メールの書き方や送り方などについて学ぶほか、資格取得や就活、経営学部2年次からのコース選択に向けた情報提供なども行っていきます。また、グループワークや社会人との交流を通してコミュニケーション力、プレゼンテーション力、表現力、マナー・モラルなどの社会人基礎力を培うとともに、自分の将来設計を行っていきます。

【第 2 グループ】

10. 安積 みづの

サブタイトル:大学生としての学習スキルを習得する

テーマと目的:

この授業は、皆さんができるだけ早く大学の授業に慣れるように、大学生としての学習スキルを身につけることを目標にしています。具体的には、図書館での文献の探し方や、レジュメのまとめ方、レポートの書き方、発表の仕方などです。授業では、具体例を挙げて書く、理由を示して書く練習や、各自が選んだテーマで発表し、それについて議論する練習をしています。全員が参加できるように、これまで、各自が地元のお菓子を紹介して皆で食べたり、皆で選んだ短編映画を見て話し合ったり、皆で決めたメニューで料理して食べる企画などもやりました。一緒に頑張りましょう！

11. 井上 快

サブタイトル:大学生活に必要な学習スキルを身につける

テーマと目的:

大学の授業では、高校で習わなかったであろう学習スキルが求められます。例えば、レポートや論文を書く力、参考図書や論文を収集する力、テーマや課題を設定する力、発表資料をまとめる力、批判的思考力などです。そこで本演習では、実際にレポートを書いたり、グループに分かれて発表資料をまとめたりしながら、上記の学習スキルを身につけることを目指します。実りのある大学生活になるよう、一緒に頑張りましょう。

12. 神谷 厚徳

サブタイトル:大学生に必要な基本的学習スキルを身に付ける

テーマと目的:

この演習では皆さんが積極的に授業に参加していただけるように、各々が興味のあるテーマを選定し、それを題材に今後必要不可欠となる、研究手法、レジュメの作成方法、プレゼンテーションの方法といった基本的な学習スキルについて学んでいきます。また、グループワークを取り入れ、「他者と協力する力」「ディスカッション能力の強化」を目指します。

13. 忽那 浩

サブタイトル:コミュニケーション能力とICT活用力のスキルアップ

テーマと目的:

対人関係において大切なコミュニケーション能力について考え、コミュニケーションスキルの向上を目指します。社会人として、良好な人間関係を築くために、何が必要とされ、何が足りないのかについて、話し合いを通して学びます。また、心を動かすプレゼンテーション力のスキルアップを目指し、効果的な伝え方やスライドの作成方法など、ICTの効果的な活用方法について実習を通して学びます。

14. 酒井 達郎

サブタイトル:ライフスキルとスポーツについて

テーマと目的:

メインテーマは現代のスポーツです。スポーツにかかわる様々な問題を取り上げていきます。例えば、ライフスキルを獲得するにはスポーツが有用だと言われています。これを踏まえ、歴史と様々なスポーツ成立の背景、身体活動としてのスポーツ、スポーツと健康といったテーマから、自分にとってスポーツの持つ意味を考えていきます。大学での研究の仕方を現代社会における健康とライフスキル、スポーツを題材としながら学んでいきます。

15. 橋崎 諒太郎

サブタイトル:英語学習を通じた大学生としての基礎力の習得

テーマと目的:

先生が全面的にサポートをしてくれた高校とは異なり、大学では自主的に学ぶ姿勢や能力が不可欠となります。本演習では英語学習を通じ、目標設定、論理的思考、文献収集・読解、文章作成、プレゼンテーションなどの能力を養います。これにより、大学生活に必要となる基礎力を身に着けると同時に、就職活動などに必要となる英語の学習方法も身に着けます。

16. 日原 尚吾

サブタイトル:心理学と大学生活

テーマと目的:

「心理学」と聞くと、他人の心を読むことを思い浮かべるでしょうか。実はそのようなことはできないのですが、みなさんの大学生活を少しだけ良い方向に向ける手がかりを得られるかもしれません。本演習では、心理学を題材に、実験や文献の輪読、グループワーク、レポート執筆などを行います。そうした活動を通して、大学で役立つ知識やスキル(PCの使い方、文献の読み方、発表、前向きな議論の作法など)を身に付けます。

17. 細川 美苗

サブタイトル:英文学について学ぼう

テーマと目的:

テキストを読み英語圏諸国の歴史や文化について学ぶ。個人やグループでテーマ研究と発表をしてもらうこともある。

18. 松尾 博史

サブタイトル:大学で必要な学習のテクニックを学ぶ・体験する、社会問題に取り組む

テーマと目的:

高校までの学習の仕方と、大学で必要とされる学習方法はかなり違います。この演習では、大学での学習にスムーズに入っていくためのやり方を学びます。前期は、これまでとは違うどんな学びの可能性が大学では開かれうるのか、具体的な作業を通して体験していきましょう。実践的には、図書館の利用法、情報収集の方法、テーマの絞り込み、レポート・論文の書き方、口頭発表の仕方、ハンドアウトのまとめ方、議論の仕方等が各回の作業テーマとなります。後期は、経済発展の問題、憲法と自衛隊、民主主義と政治参加など、アクチュアルな社会問題を取り扱います。

興味のあるテーマを選び、履修者全員が、前後期とも一度は授業のメインになります。毎回、学生2名程が担当者となり、担当者が中心となって演習を運営します。担当する回の事前には、指導教授との綿密な打ち合わせと準備作業が必要です。

【第 3 グループ】

19. 井上 修一

サブタイトル：金融の基本

テーマと目的：

テキスト(ビジュアル金融の基本／高月昭年／日本経済新聞社)を輪読しながら、「金融」の基礎知識を身につけます。また、新聞などを利用して、いま世の中で起こっていることを調べます。

20. 上羽 博人

サブタイトル：貿易取引と国際分業の構造と変化

テーマと目的：

私たちの生活の中で日本製を探し出すことはとても難しくなっています。衣類や電化製品などの工業製品には中国製、ベトナム製などの原産国が表示されているので分かりやすいのですが、実は食品もかなり輸入が増えています。「そば」や「うどん」の原料が輸入されていることはよく知られていますが、日本製であっても実は海外とかがわりが深いものがあります、それは卵です。卵はすべて日本製ですが卵を産む鶏の飼料はほとんどが輸入された「とうもろこし」や「大豆」です。そして、多くの原料や製品が輸入できるのも日本の高い技術により作られた工業製品の輸出から得た外貨があるからです。

このゼミでは、貿易や国際分業の構造を中心に、愛媛県の産業と日本の他の地域との関係、海外との関係などについて学びます。

21. 苅谷 寿夫

サブタイトル：企業経営の分析

テーマと目的：

「よい企業」はどうやって見分ければよいのか。これは就職をはじめ様々な場面で重要な問題です。「よい企業」を知る一つの重要な方法が企業経営の成績などの数字を読み解くことです。そこで実際の企業の成績表(有価証券報告書)を用いて、企業実態の分析法について学習します。また、論文の読解や論理的な文章の書き方など、大学で必要とされる学習のスキルについても指導します。

22. 崔 琳源

サブタイトル:大学生活を楽しみながら、経営学の基礎を築く

テーマと目的:

本授業では、経営学部での学びに早く慣れ、大学生としての生活にスムーズに移行できるようにすることを目指しています。大学生活では自由な時間が増え、その時間をどう管理し充実させるか、どのように学びを深めるかを一緒に考えていきましょう。また、経営学の基礎知識を身につけるために、基本的な書籍を輪読し、経営学の視点から最新のトレンドやニュースを読み解く力を養っていきます。この1年間を通して、自分の興味や関心に合った経営学の分野を見つけ、今後の学びの方向性を考えるきっかけにもらえればと思います。

23. 柴田 好則

サブタイトル:マネジメントの基礎を学ぶ

テーマと目的:

この演習では、企業のマネジメントに関わる題材を取り上げ、アカデミック・スキルと社会人としての基礎能力を養うことを目的とします。たとえばビジネスのシミュレーション・ゲーム、ビジネス雑誌の記事読解、企業の分析、図解表現のためのトレーニングなどを実施します。

24. 田村 公一

サブタイトル:キャンパスライフプランの設計とビジネス基礎知識の習得

テーマと目的:

経営学部の基礎演習は、初年度教育科目として、新入生が大学生活にソフトランディングするために設置された講座です。大学では、4年次の卒業論文提出に向けた「研究」が重要な課題となり、中学・高校の「学習」とは異なる学生生活の姿勢と方法を身に付けておく必要があります。また、卒業後の「なりたい自分」を目指して、進路決定を視野に入れた4年間のキャンパスライフプランを、1年次の今から模索していくことが肝要です。

このような主旨から、本演習では、経営学を研究するにあたってのガイダンス、業界分析能力の育成を目指したビジネス雑誌の購読、資格取得に関する情報提供、ビジネス専門用語の理解、人事担当者を唸らせるエントリーシートの書き方、日本経済新聞の活用方法など、諸々のアプローチから、皆さんのキャンパスライフをサポートできるような演習にしていきたいと考えています。

光陰矢のごとし。先輩たちは皆一様に、「4年間はとても早かったです」と言って卒業していきます。皆さんも充実した大学生活をかたち作るために、切磋琢磨して下さるよう希望致しております。

25. 田村 祐介

サブタイトル: 大学で学ぶための基礎的技法の習得

テーマと目的:

高校と大学の学習は違うと言われます。それでは何が違うのかを円周率を例に考えてみましょう。円周率は 3.14 であると教えられた (=暗記させられた) と思います。しかし根本的な問題として円周率とは何で、なぜ 3.14 になるのでしょうか。

以上から高校と大学の学習の違いは、現象の理解の深度になると言えます。

本演習は大学で学ぶための下準備として基礎的な技法の習得を目指します。具体的には本を輪読し、各回報告者を決め報告してもらい議論します。

26. 中村 雅人

サブタイトル: 保険の基礎を学ぶ

テーマと目的:

本演習では、集合授業において入学後の学生生活に必要な基本事項について学ぶと共に、個別授業においては、特に指定の教科書を用いて保険の基礎を学びます。その目的は、知識の習得はもちろんのことですが、文献の精読能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力の向上にあります。これらの能力は、今後の学生生活においてはもとより、社会に出ても必要とされる能力であり、積極的に演習に参加することが望まれます。

27. 成田 景堯

サブタイトル: 覚える勉強から考える勉強への実践的学習

テーマと目的:

この演習では、高校までの答えを覚える勉強ではなく、自ら問題設定し・調査し・発表やディスカッションなどを通じて、その解答を見つけていく考える勉強を実践していきます。具体的には、最初の何回かの演習は考える勉強に必要なスキルについて学び、その後は班に分か

れてテーマに合わせて考える勉強を実践してもらい、その方法を身につけていくことを目標とします。

28. 山崎 義広

サブタイトル: 社会人になっても必要なスキルの習得をめざす

テーマと目的:

高校, 大学, 社会人と環境が変わっても必ず必要なスキルがあります。月並みですがそれはコミュニケーション能力です。いわゆる「コミュ力」は掴みどころがなく私たちを苦しめ続ける言葉です。そのぶん色々な側面から鍛えられるという考え方もできます。

そこで本演習では「プレゼンテーション力」を軸に学んでいきます。目標としては学年が進んでも, 社会にでても不安にならないような, プレゼンテーション以外にも様々な基礎的なスキルを磨くトレーニングを行っていきます。

以上